



伝統文化の継承による都市住民との交流の推進

じとく ひろさきし
自得地区環境保全会（青森県弘前市）

- 本地域では高齢化や担い手不足等の進行により、農業用施設の管理水準の低下が課題となっていたが、平成18年の交付金活動のモデル地区指定をきっかけに、新たな“結”が根付き、地域の農業への理解が深まった。
- 共同活動を契機に、地元大学やNPO法人との連携が始まり、地域資源を紹介するパンフレットの作成など、地域資源の活用や承継を図り、地域振興の取組を実施。
- 平成25年からは、地域資源を活用した農作業体験や地域資源の散策を行うバスツアー、地域に伝わる伝説と歴史を中心に制作された劇の上演など、様々な地域振興活動を他事業も活用して実施。
- 多面的機能支払の共同活動は、これら都市と農村の交流を活性化させる下支えとなっている。

【地区概要】

- ・取組面積 171ha（田144ha、畑27ha）
- ・資源量 開水路57.3km、農道12.8km、ため池1箇所
- ・主な構成員
農業者、子ども会、PTA、老人クラブ、土地改良区ほか
- ・交付金 約15百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は高齢化や担い手不足等の進行により、農業用施設の管理水準の低下が課題となっていた。
- 平成18年の農地・水・農村環境保全向上活動支援事業のモデル事業の実施以降、共同活動を地域が一体となって行うことで、新たな“結”が根付き、地域の農業への理解が深まった。
- また、平成24年から弘前大学やNPO法人等と連携して地域資源の活用や承継を図り、地域の魅力を地域外へも発信し、都市との交流や地域振興にも取り組むようになった。



地域資源を紹介する「鬼沢まるごとMAP」

取組内容

- 弘前大学やNPO法人が共同活動に参加するとともに、地域資源を紹介するパンフレット「鬼沢まるごとMAP」を連携して作成。地域住民への配布のほか、市内の観光案内所等で広く配布。
- また、本活動組織が共同活動で保全している地域資源を活かし、様々な農村振興の活動を、NPO法人等と連携しながら他事業を活用して実施。

■歴史と伝説の里「鬼沢の旅」バスツアー（平成25年から）

保全された農地でのにんにくの作付けや収穫体験、地域資源の散策等を実施。

■津軽ふるさと創成劇「鬼と民次郎」上演（平成26年から）

■歴史物語スライド「義人 民次郎」の復刻上映（平成26年から）



バスツアーでのにんにく収穫体験

取組の効果

- パンフレットはこれまでに約1,500部配布し、現在も市内の観光案内所等で配布中。
- バスツアーには平成26年からの3年間で約130名が参加。
- 演劇には2年間で約2,000人が来場。また、スライドは地域住民のほか、バスツアーの参加者など、約500人が鑑賞。
- これまでの取組が評価され、平成26年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯を受賞。
- 今後も、地域資源を活用した都市と農村の交流を促進し、グリーン・ツーリズムを推進し、地域の活性化を図る。



津軽ふるさと創成劇「鬼と民次郎」



外来魚や未利用魚の利用の推進

平地農業地域

おおがたむらおおがたちいき

おおがたむら

大潟村大潟地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会（秋田県大潟村）

- 本地域は、八郎潟干拓地にあり、周辺の八郎湖は、富栄養化の進行に伴い水質汚濁が顕在化。
- 県が策定した「八郎湖に係る湖沼水質保全計画」(以下、「水質保全計画」という。)の対策に参画し、本制度により、外来魚や未利用魚の捕獲による窒素、リンの回収を実施。
- 捕獲した未利用魚等を魚粉肥料に加工し、景観形成活動に利用することで、地域内の資源循環を促進するとともに、良好な景観が形成され、地域に憩いや安らぎの場を提供。

【地区概要】

- ・取組面積 11,371ha
(田11,096ha、畑275ha)
- ・資源量 農道434.8km
- ・主な構成員
農業者、自治会、女性会、子供会、JA、PTA、土地改良区、大学、環境活動団体、建設業者 等
- ・交付金 約162百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は八郎潟干拓地にあり、周辺の八郎湖は、農業用水として利用されているが、富栄養化の進行に伴い、アオコが大量発生する等、水質汚濁の問題が顕在化。
- 平成19年の湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼の指定を受け、県が水質保全計画を策定。
- 現在、第2期計画(H25～30)により、水質改善の各種対策に取り組んでいる。



八郎湖（八郎潟調整池）から干拓地を望む

取組内容

- 本活動組織は、水質保全計画の対策に参画し、住民主体の水質保全活動にも位置付けられている取組の一つとして、外来魚や未利用魚の捕獲による窒素、リンの回収を実施。
- 捕獲した未利用魚等は、魚粉肥料に加工し、本活動組織の景観形成活動に利用。



未利用魚等の捕獲



未利用魚等を加工した魚粉肥料

取組の効果

- 取組により、未利用魚等の捕獲と魚粉肥料への利用が推進。
〔 平成29年度実績
未利用魚の捕獲:5,484尾(7,078kg)
魚粉肥料の製造:5,565kg 〕
- 魚粉肥料を景観形成活動で利用することで、地域内の有機性廃棄物の減量が図られ、資源循環を促進。良好な景観が形成され、地域に憩いや安らぎの場を提供。
〔 景観形成活動の平成29年度実績
菜の花の植栽:14km コスモスの植栽:4km
ヒマワリの植栽:10km 〕

菜の花ロード



魚粉肥料を景観形成活動に利用



菜の花ネットワークで地域資源循環

みさとちょうせんはた

みさとちょう

美郷町千畑地域農地・水・環境保全組織 (秋田県美郷町)

こあらかわ

- 本組織区域内の小荒川集落においては、集落内の食用廃油の回収、食用廃油のBDF(バイオディーゼル燃料)化等、以前から、地域資源の活用、資源循環の取組を実施。
- 農地・水保全管理支払交付金の取組を契機に、地域内の休耕田およそ1haに菜の花の播種を行い、良好な農村景観を形成。
- 刈取り後の菜種から製造した菜種油をBDF化し、これを景観形成活動に必要な作業機械の燃料として使用する等、今後は、地域資源の循環を一層進めることが目標。

【地区概要】

- ・取組面積 2,540ha (田 2,540ha)
 - ・資源量 開水路663.9km、農道471.9km、ため池43箇所
 - ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、JA、生産組合、土地改良区 等
 - ・交付金 約124百万円(H29)
- (農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化))

資源循環の進め方

下水の終末処理場の機器類に油がこびりつき維持管理に多額の費用がかかる。

家庭から廃油を流さなければ終末処理場の維持管理費が低減できる。

公民館にドラム缶を設置し、廃食油の回収を呼びかけ。

水質汚濁を軽減

BDFとして再利用し、CO₂排出を抑制

環境負荷の低減(農村環境保全)



公民館に廃食油回収缶を設置し、廃油の回収を呼びかける。

休耕田への菜の花植生

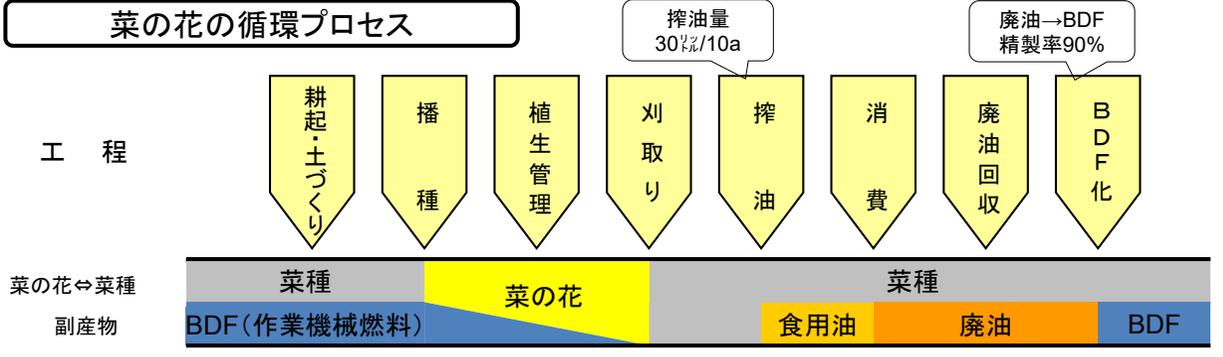


耕起作業のトラクターは、菜種油から製造されたBDFを燃料としている。

9月に播種した菜の花が、翌5月に見頃に。



菜の花の循環プロセス





『農業者のための相談所』を開設し様々な問題に対応

しらかわし
福島県白河市

- 白河市は、那須連峰を望む福島県の南部中央に位置し、面積の約57%を山林が占める地域。市内には阿武隈川、社川、隈戸川をはじめとする多くの河川が縦横に流れ、これらの源流域には優良農地が広がり豊かな田園風景を形成。
- 農業を取り巻く環境が変化する中、農業者から様々な問題や悩みに応えるため、農業者のための相談所となる『人・農地相談センター』を平成27年4月に開設。
- 『人・農地相談センター』には、経験豊富な専門知識を有する専門相談員を2名配置。専門相談員が主となり多面的機能支払交付金制度の研修会や集落説明会を開催するなど、組織設立までの申請手続きの支援や既存組織からの活動に係る相談について、迅速・丁寧に対応。
- このことにより、地域からは、安心して活動に取り組むことができたとの声もあがっている。

【取組概要】

- ・活動組織 62組織(H29)

農地維持支払	62組織
資源向上支払(共同)	62組織
資源向上支払(長寿命化)	20組織
- ・認定農用地 2,831ha
(田2,525ha、畑306ha)
- ・保全管理する施設
開水路 702 km、農道 391 km、
ため池 118 箇所

相談所を開設した経緯

- 「人・農地プラン」の実現をはじめ、「農地中間管理事業」の活用や「多面的機能支払交付金」活動組織への支援・指導、また、「農業の経営力を高めたい」、「農地を貸したい・借りたい」、「認定農業者になりたい」、「集落営農等の組織化・法人化を進めたい」、「新たに農業を始めたい」等、農業に関する様々な相談にワンストップで一体的に対応できる体制の構築が必要であった。
- そこで、平成27年4月から農業者のための総合的な相談窓口として『人・農地相談センター』を開設し、専門相談員等が農業者からの相談に迅速・丁寧に対応している。



田園風景

農業者からの相談状況

- 『人・農地相談センター』に寄せられる営農関係の相談としては、
 - ・ 農地の貸し借り
 - ・ 集落営農等の組織化・法人化
 - ・ 新規就農 など
 - 多面的機能支払制度に関する相談としては、
 - ・ 新規組織の立ち上げ支援
 - ・ 外注費の協議
 - ・ 活動全般にわたる各種相談 など
- 〔多面的機能支払の相談は、全体相談件数の約57%〕
- より効果的な活動が実施されるよう、相談センター主催による研修会を開催。H27から各地区で計15回実施。総出席者数758名(活動組織役員等)



活動組織向け研修会の様子

相談所を開設した効果

- 相談センターは、センター長(市OB)、専門相談員2名、JA職員(兼務)、臨時職員で構成し、農業者が気軽に相談できる体制を構築している。

多面的機能支払交付金制度に係る相談件数		
H27: 50件	H28: 63件	H29: 58件(2月まで)
- 組織設立までの申請事務手続きを支援することにより、新たな活動組織が取組を開始した。

活動組織数	H26迄	34組織	→	H29現在	62組織
新規組織数	H27	15組織		H28	7組織
	H29	6組織			
- 相談センターがJAや土地改良区と連携することで、活動組織の事務の外部委託が増加しており、活動組織の事務負担軽減と取組促進が図られている。
- 施設の長寿命化活動の取組が大幅に増加したため、工事施工について、専門的な立場から助言、指導を行っているほか、その他の活動についても、具体的な事例による実務研修を実施し、大いに役立っている旨の感想が多く寄せられている。



施設の老朽化が進む水田地帯における活動組織の設立

やぶきまち なかのめ

矢吹町中野目地域資源保全会（福島県矢吹町）

やぶきまち

- 当地域は、小規模な集落で地域のまとまりが良く、地域住民による共同作業で施設の保全管理を実施していた。しかし、ほ場整備事業完了から約35年が経過し、水路・農道等の老朽化が進み、補修等の管理費の増加が問題となっていた。
- 集落内で話し合いを重ね、定年退職者の事務担当者を選任できたことから、多面的機能支払交付金の取組を開始することとなった。
- 全戸参加を基本とし、水路・農道・ため池の草刈り、水路の泥上げ、施設の補修等のほか、花いっぱい運動などの農村環境保全活動にも取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 23ha（田 23.3ha）
- ・資源量
開水路 10.0km、農道 2.4km、
ため池 3箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、婦人会、老人会、子ども会 等
- ・交付金 約1百万円(H29)
（農地維持支払
資源向上支払(共同)）

施設の草刈り



水路・農道等の草刈り



水源として重要なため池堤体の草刈り

施設の泥上げ



水路の泥上げ



取水ゲート前の泥上げ

農村環境保全活動



老人会、婦人会、地域住民による植栽



婦人会と子ども会による植栽



中世平泉の荘園景観を保全する取組

中間農業地域

ほねでらむらしようえんだんち

いちのせきし

骨寺村荘園団地多面的機能保全会（岩手県一関市）

- 本地域は、国の史跡等に選ばれているものの、曲がりくねった水路等と農業者の高齢化等により維持管理の負担が増大。
- 本制度の取組を機に草刈・泥上げを一斉作業に切り替え効率化。景観に配慮した施設の補修や、ホタルが生息する水路周りの草刈りは、ホタルの生息に配慮。
- 草刈り等に企業や大学等から数多くのボランティアが参加。世界遺産を目指す取組が関心と呼び、観光客が増加。また、ホタルに配慮した取組により、ホタルが増加し、新たな観光資源となっている。

【地区概要】

- ・取組面積 106ha（田91ha、畑11ha、草地3ha）
- ・資源量
開水路23.0km、農道15.5km、ため池6箇所
- ・主な構成員
農業者、営農組合、地域づくり推進協議会等
- ・交付金 約8百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、中世平泉の荘園の景観を色濃く残す地域で、「骨寺村荘園遺跡」として国の史跡や「一関本寺の農村景観」として国の重要文化的景観に選定。
- 曲がりくねった水路や不整形な水田の広がり詩的景観を醸し出すものの、農業者の高齢化や担い手不足により維持管理の負担が増大。
- 営農条件を改善するため景観保全型農地整備を実施したが、景観に配慮し、土水路や未舗装農道は残すことになり、これらの維持管理が課題となった。



骨寺村荘園

取組内容

- 従来、3水系それぞれで実施していた草刈り・泥上げを、本制度の取組を機に年2回の一斉作業に切り替えた。
- ほ場整備区域外において農道及び水路の景観に配慮した補修等を実施。（水路は景観に配慮した木柵を使用。）
- ホタルが生息する水路周りの草刈りは、ホタルの生息に配慮するとともに、地域住民等との交流活動として「ホタルを見る会」を開催。



景観に配慮した木柵水路



ホタルを見る会

取組の効果

- 本活動の地道な作業の重要性が認識され、地域の建設業協会や水道組合、市の管理職会、岩手大学の学生等がボランティアで共同作業に継続的に協力。
- 草刈りや泥上げ等により、農業者の負担が軽減されるとともに、歴史的景観が保全。
- 世界遺産登録「平泉」の関連資産として拡張登録を目指す取組が国民的な関心と呼び、歴史的景観を楽しむ観光客が増加。
- 土水路の維持管理や生き物に配慮した草刈りによりホタルが増え、「ホタルを見る会」も地域内外からの参加者が増加。農村の自然環境について学ぶ場になるとともに、地域の新たな観光資源となっている。

〔 農業者以外の共同活動への参加者数
約202人（取組前（H25年））⇒約241人（取組後（H27年）） 〕

〔 ホタルを見る会参加者数
取組前（H25年）：約20人⇒取組後（H28年）：約50人 〕



しんわ はちのへし
新和地区資源保全隊（青森県八戸市）

- 本地域は、八戸市北部の五戸川流域の水田地帯で、駆除が難しい特定外来生物オオハンゴンソウの群生が見られるようになり、地域の生態系への影響が危惧されていた。
- 平成20年度から始めたオオハンゴンソウの駆除活動を、本制度により継続的に実施するとともに、植栽活動や啓発・普及活動も実施。
- 継続的な駆除活動と啓発・普及活動により、地域住民の生態系保全等に対する意識が向上し、オオハンゴンソウ群落も徐々に減少している。

【地区概要】

- ・取組面積 23ha（田23ha）
- ・資源量 開水路7.1km、農道4.8km
- ・主な構成員
農業者、自治会、改良区、
小学校PTA
- ・交付金 約1百万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、八戸市北部の五戸川流域に位置する市街地に隣接する水田地帯である。
- 平成14年度頃から、特定外来生物であるオオハンゴンソウの群生が見られるようになり、地域の生態系に影響することが心配された。
- オオハンゴンソウは、繁殖力が旺盛で、スコップ等で根ごと引き抜く必要があることから、駆除には大きな負担がかかった。



オオハンゴンソウ

取組内容

- 平成20年度から、市内の各地でオオハンゴンソウが見られるようになったことから、駆除活動を継続的に実施(毎年9月頃に年1回実施)。
- 駆除活動等、本組織の活動内容を地域に紹介する広報誌を発行(年1回)し、啓発・普及を行っている。



広報誌「保全隊新聞」



看板による活動紹介

取組の効果

- 継続的な啓発・普及活動により、地域住民の生態系保全に対する意識が向上。活動参加者は一定程度確保できており、近年は30名を超える地域住民が作業を実施。
- 毎年、確認されたオオハンゴンソウを全て駆除することにより、地区内のオオハンゴンソウの群落が徐々に減少。

【毎年の駆除量：30L入りゴミ袋×20～30袋】



オオハンゴンソウの駆除活動



だいせんしなかせんなんぶ

だいせんし

大仙市中仙南部広域活動組織 (秋田県大仙市)

- 本地域は、平成12～25年度にかけてほ場整備事業を実施したが、地域内の川に生息していた絶滅危惧種であるトミヨ属雄物型(通称:イバラトミヨ)を始めとする地域の動植物を保全するため、平成19年度に農地・水・環境保全向上対策により、保全池を整備。
- 地元小学校と連携し、児童による保全池の生物調査を実施し、環境の豊かさを啓発。しかしながら、イバラトミヨの個体数の増加は確認できなかった。
- このため、多面的機能支払交付金を活用し、市と連携し、イバラトミヨの営巣・生育環境として必要な水草が生育できる環境を整えた上で移植を行うとともに、環境学習の機会を提供。生物調査でイバラトミヨの個体数の増加が確認されるなど、保全池が再生されている。

【地区概要】

- ・取組面積 549ha (田549ha)
- ・資源量
開水路 97.8km、農道 9.1km
- ・主な構成員
農業者、土地改良区、自治会、子ども会
- ・交付金 約26百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

- 保全池整備の際に、水草の移植を行い、イバラトミヨの営巣・生育環境の整備を実施。
- しかしながら、保全池の水深が深く、水草に日光が届かないことや、土壌との相性の問題により水草が定着せず、平成26年時点では、イバラトミヨの生息環境は十分でなかった。



トミヨ属雄物型(通称:イバラトミヨ)



従前の生息環境

取組内容

- 市と連携し、保全池の再生方法の検討を行った上、H26年12月にコンクリートフリュームを利用して浅瀬を創出し、水草を移植。
- 地元の小学校と連携し、生徒による生物系調査を通じ、地域が持つ豊かな環境を認識する機会を提供。
- イバラトミヨの生息を紹介する看板を保全池前に設置するなど啓発活動を実施。



池干し時(露出状態)



保全池の案内看板



←水草の移植

コンクリートフリュームを利用し水草を移植

取組の効果

- 共同活動によりイバラトミヨの営巣・生育環境が整えられたことから、個体数が増加を確認。

【イバラトミヨの個体数】

H26年度:52匹 ⇒ H27年度:182匹
(前年度比で3.5倍の増加)

【イバラトミヨの体長】

H26年度 (平均)39.4mm (最大)58mm
H27年度 (平均)45.0mm (最大)67mm
(個体の生育が促進)

- 保全池が再生されたことにより、効果的な地域環境の学習の場となり、小学生の環境保全に対する意識が向上。



地元の小学生による生物調査



直営施工による計画的な保全管理

えだの
枝野 8 区資源保全隊 (宮城県角田市) かくだし

- 本地区内の水路は、施設の造成後50年以上が経過し、磨耗により水路内面の骨材が露出する等、老朽化が進んでいる状況。これに加えて、東日本大震災の影響により、一部水路において目地の破損や不同沈下が生じるなど、施設の機能低下が一層進行。
- このため、本組織では、施設の機能診断を行い、施設の機能低下状況に応じて、目地詰めや水路内面のライニング(舗装材の被覆)を直営施工により実施。
- 取組を開始した当時は慣れない作業に苦労したが、現在では、施工可能延長が増加するなど技術力が向上。また、これらの経験の蓄積が、活動組織の自信に繋がっている。

【地区概要】

- ・取組面積 91ha(田 85ha、畑 6ha)
 - ・資源量 水路 15.2km、農道 5.6km
 - ・主な構成員
農業者、自治会、PTA、土地改良区等
 - ・交付金 約5百万円(H29)
- 〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

水路の状況 (補修前)



既設水路の劣化状況

- 地区内の水路は、造成後50年以上経過しており、磨耗により骨材が露出するなど老朽化が進行。
- さらに、東日本大震災の影響により、目地の破損や水路の不同沈下が発生。

機能診断、軽微な補修



機能低下状況の調査、評価



水路の目地詰め(直営施工)

水路の補修 (直営施工)



水路内面のライニング



補修工事の経験者が中心となり直営施工を実施

※ライニング・・・表面を保護するため、他の材料を被覆すること。



ひろはた

よねざわし

米沢市広幡地域農地・水・環境保全組織（山形県米沢市）

- 本地域は、山形県の南部に位置する水田地帯。水路等は造成後40年経過し、老朽化の進行により維持管理に苦慮していたことから、H24年度から農地・水保全管理支払交付金に取り組み、地域ぐるみで水路等の保全管理を開始。
- また、施設の長寿命化対策は、地域住民が施設の補修等の技術を学び、自ら作業を行うことで、補修等に係る費用を縮減するとともに、地域で継続的なメンテナンスを行える体制を整備。
- 平成27年度から行っている水路の補修等は、自主施工で行うことにより、外注した場合に比べて費用を約3割程度削減。また、自ら補修等を行うことにより、共同活動への取組意欲の向上や、補修等の技術の習得により安全管理への意識が向上。

【地区概要】

- ・取組面積 443ha(田443ha)
- ・資源量 開水路53.0km、農道26.5km、ため池1箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、土地改良区、維持管理組合
- ・交付金 約27百万円(H29)
 - 農地維持支払
 - 資源向上支払(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、山形県の南部に位置する水田地帯。保全管理する施設が多く、造成後40年以上が経過し、老朽化により維持管理が困難化。
- 農業者の高齢化の進行により、農業者だけによる施設の維持管理が困難となった。
- このため、平成24年度から農地・水保全管理支払交付金に取り組み、地域ぐるみで水路等の保全管理を開始。



老朽化した水路

取組内容

- 施設の長寿命化対策は、地域住民が補修等の技術を学び、自ら作業を行うことで、補修等に係る費用の縮減と、地域で継続的なメンテナンスができる体制を整備。
体制: 15人(有資格者10人含む)
- 構成員が作業等に必要な技術を修得するため、外部講習の受講や組織内での講習会を実施し、技術力の向上に取り組んでいる。



作業講習会の開催



自主施工の実施

取組の効果

【自主施工による工事費削減】

- 水路補修等を構成員による自主施工で行うことにより、約3割費用を削減。

例)水路設置工事(400×400)の場合
 外注 : 約17,200円/m
 自主施工: 約11,800円/m

【維持管理の活動意欲向上】

- これらの取組により、組織内で施設の使い勝手を良くする工夫、共同活動に対する意欲の向上や安全管理に対する意識が向上。



廃棄処分の資材を用水ゲートなどに有効活用

おとかな しもごうまち
音金農地・水環境保全組合（福島県下郷町）

- 本地区内の水路は、造成後約30年が経過しており、老朽化が進行中。多面的機能支払交付金により水路の補修等を行うに当たり、廃材を活用することで経費を大幅に節減。
- 例えば、活動組織が管理している分水工は、古い木板等で造られた角落とし構造であり、分水工の操作に手間取ることもあった。このため、ハンドルで操作可能な鋼製ゲートの製作・据付を行ったが、廃棄予定の葉たばこ梱包機の部品を有効活用することにより、改修費用を大幅に節減。
- また、雨水時に溢水していた水路の補修等において、国道の改修工事の後に払い下げを受けたコンクリート二次製品を活用。

【地区概要】

- ・取組面積 79 ha
(田 74 ha、畑 5 ha)
- ・資源量
開水路23.0 km、農道13.0 km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、消防団、土地改良区等
- ・交付金 約4百万円(H29)
(農地維持支払
資源向上支払(共同))

維持管理の課題



上流分水工

分水工は、老朽化した木板や角材利用の角落構造であり、操作等に不測の時間を要す



葉たばこ梱包機

廃棄予定の梱包機のスピンドル、ハンドルを活用



急流の水路

水路は、急流であり大雨の度に溢水が発生。このため、土のうを積んで応急的に対処。



コンクリート二次製品水路

払い下げを受けたコンクリート二次製品水路を活用

経費削減のための 創意工夫



施工中

溶接工、土建業、佐官等経験した農業者である構成員が中心となり1箇所およそ2日間で完成
(全4箇所を短期間で実施)



スピンドル ハンドル



施工中

水路改修を実施
(地域住民は、高度な技術を習得)

改修後の状況



完成後の通水状況

ゲートの設置により、操作性が格段に向上



完成後に操作を確認



完成後の通水状況

溢水の心配が無くなった水路